

田手川

広域基幹河川改修事業

事業目的

流下能力不足による浸水被害が発生 (主な浸水被害)

昭和28年6月洪水

浸水戸数 2,540戸

農地浸水面積 2,350ha

平成2年7月洪水

浸水戸数 487戸

農地浸水面積 3,390ha

浸水被害の軽減を図る

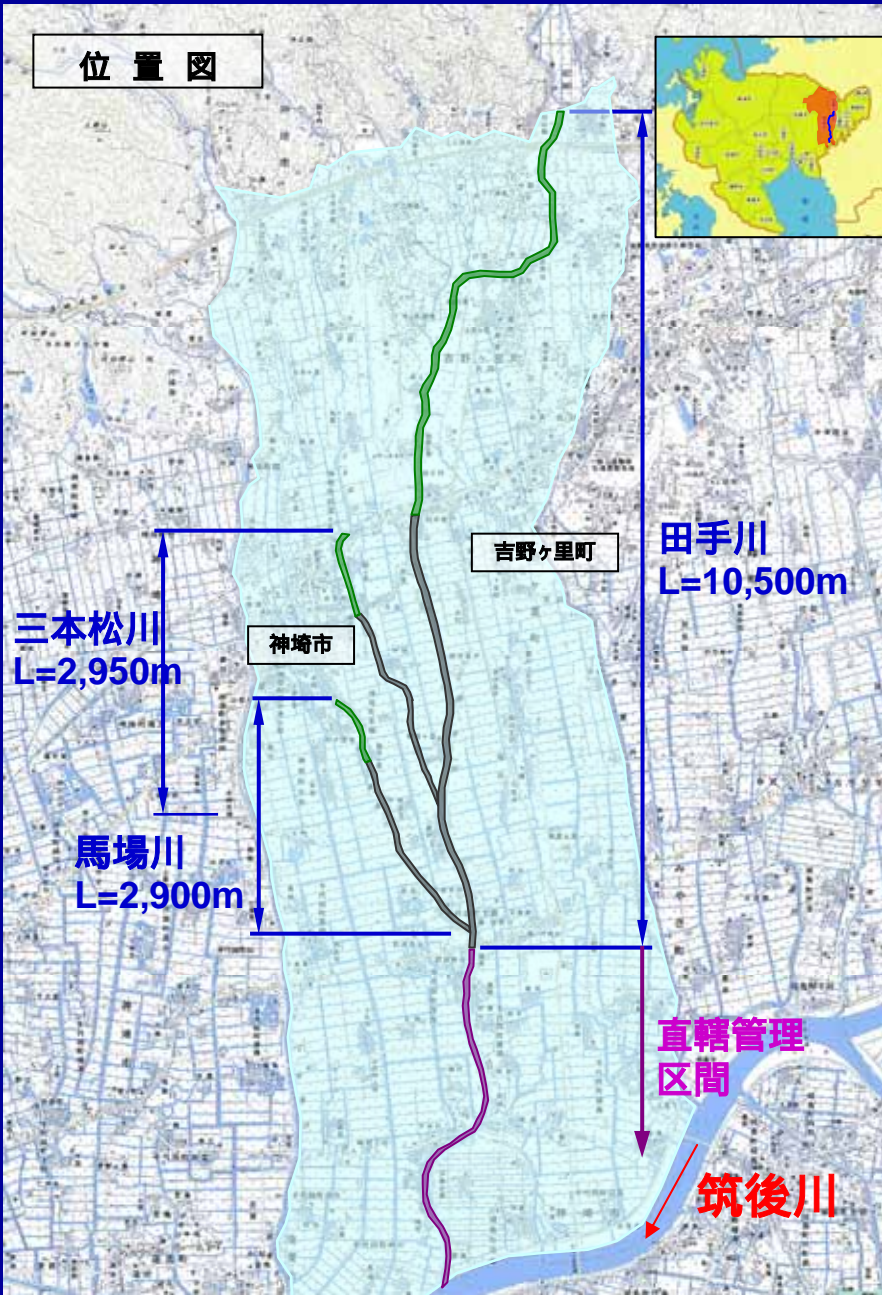
- ・流路是正、狭窄部解消を実施
- ・治水安全度の向上を図る

計画流量 $490 \text{ m}^3 / \text{s}$

計画治水安全度 $1 / 50$

事業概要

位置図



事業採択：田手川

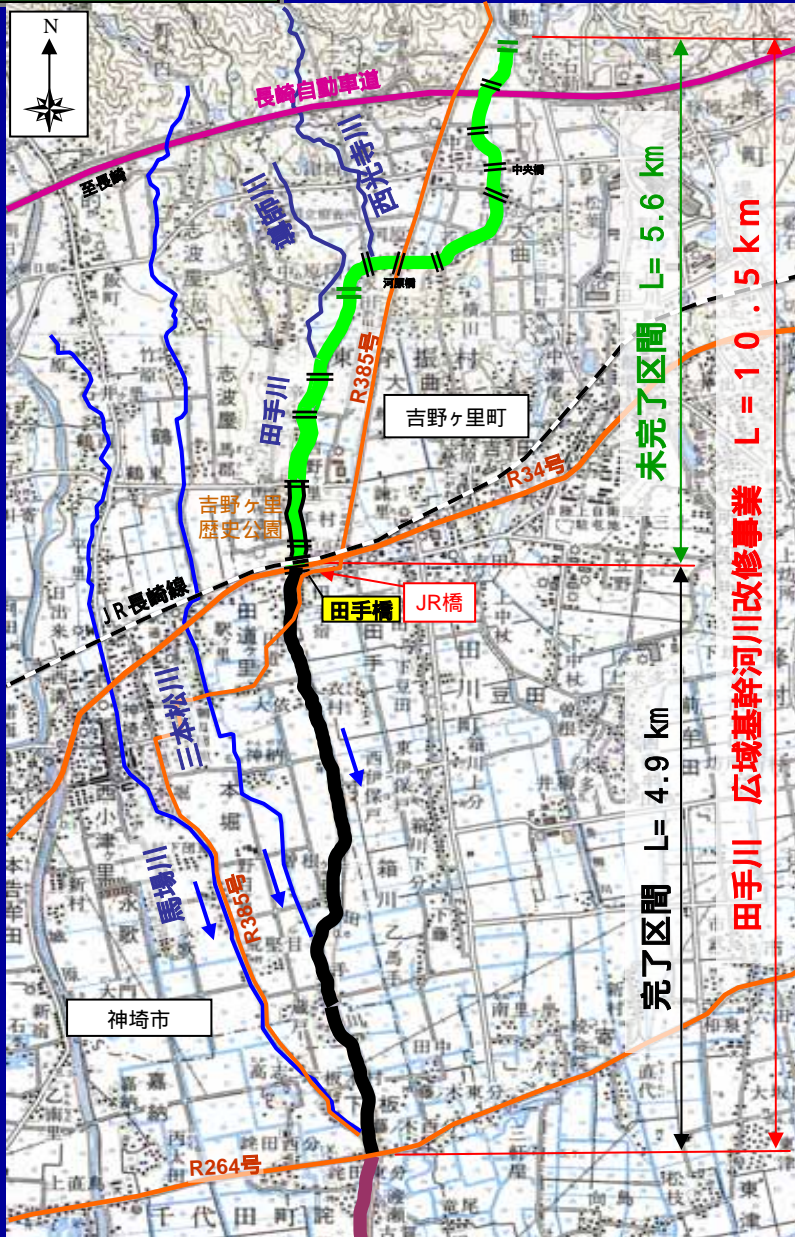
(工区：田手川、馬場川、三本松川)

着手年度	昭和41年
事業地	神崎市、吉野ヶ里町
全体事業費	30,610百万円 (H19末:63%)
事業期間	S41 ~ H35
改修延長	16,350m
計画流量	490m ³ /s
計画治水安全度	1/50
実施内容	掘削・築堤・護岸、排水機場2箇所、樋管7基、橋梁41基、堰19基
費用対効果	5.2

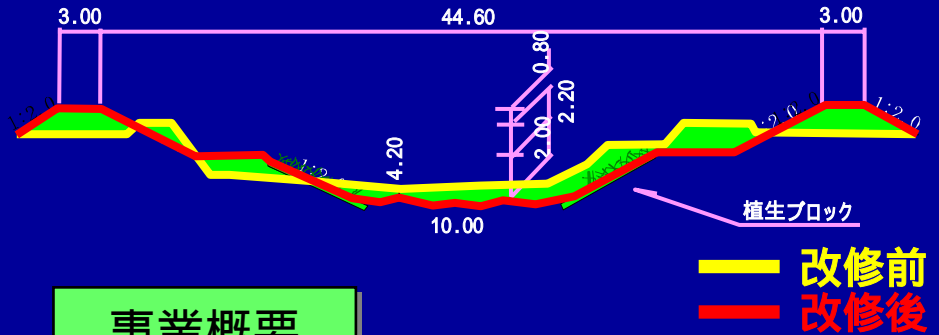
田手川

事業進捗状況

位置図



標準横断図



事業概要

- ・全体事業費 22,000百万円
- ・改修延長L=10.5km
(完了区間:L=4.9km、未完了区間L=5.6km)

掘削、築堤、護岸、排水機場2箇所、
橋梁工22基、堰12基

完了区間



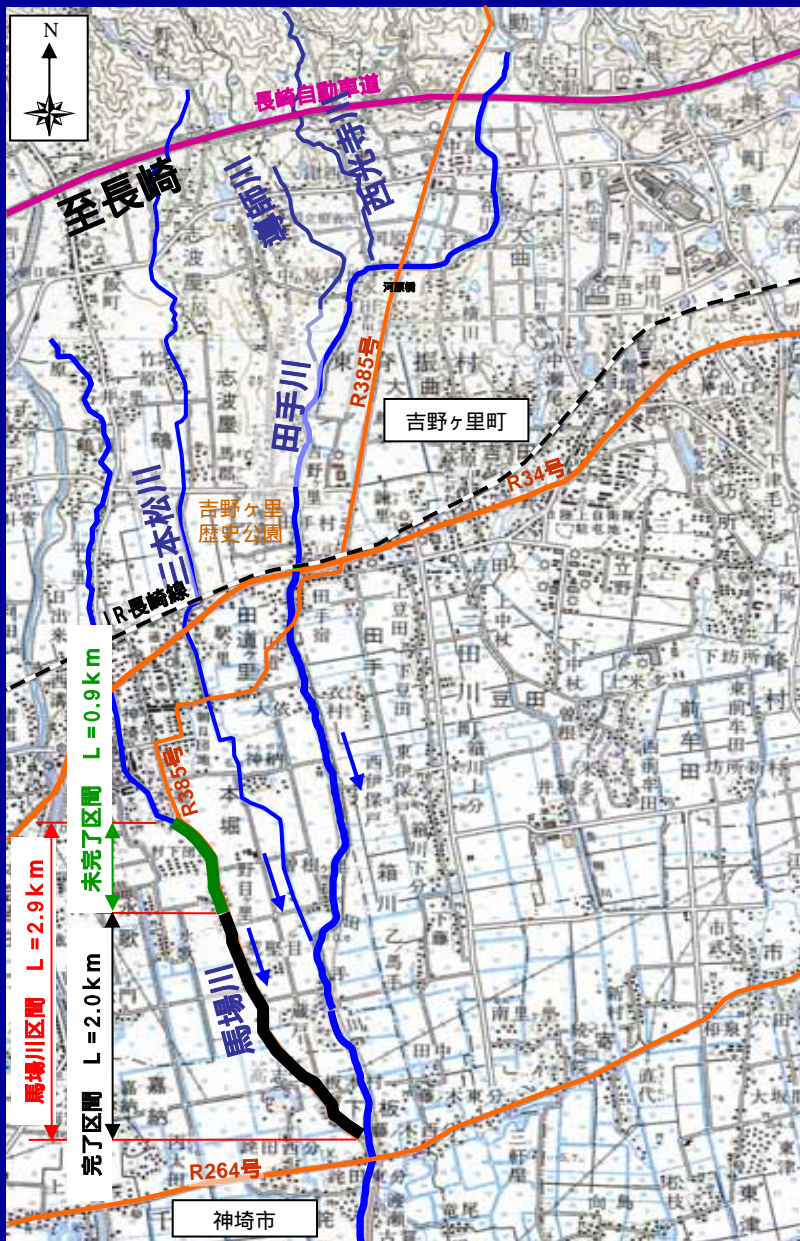
未完了区間



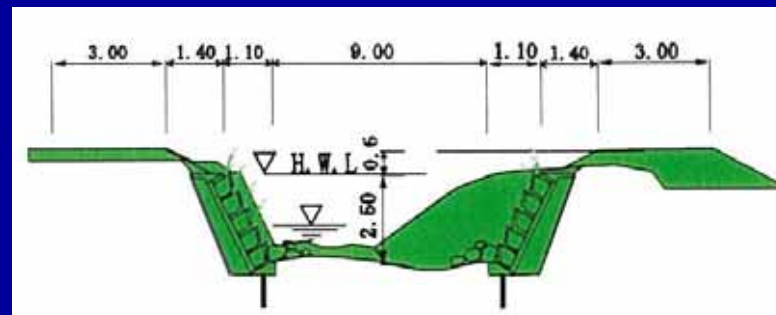
馬場川

位置図

事業進捗状況



標準横断図



事業概要

- ・全体事業費 3,520百万円
- ・改修延長L=2.9km
(完了区間:L=2km、未完了区間L=0.9km)

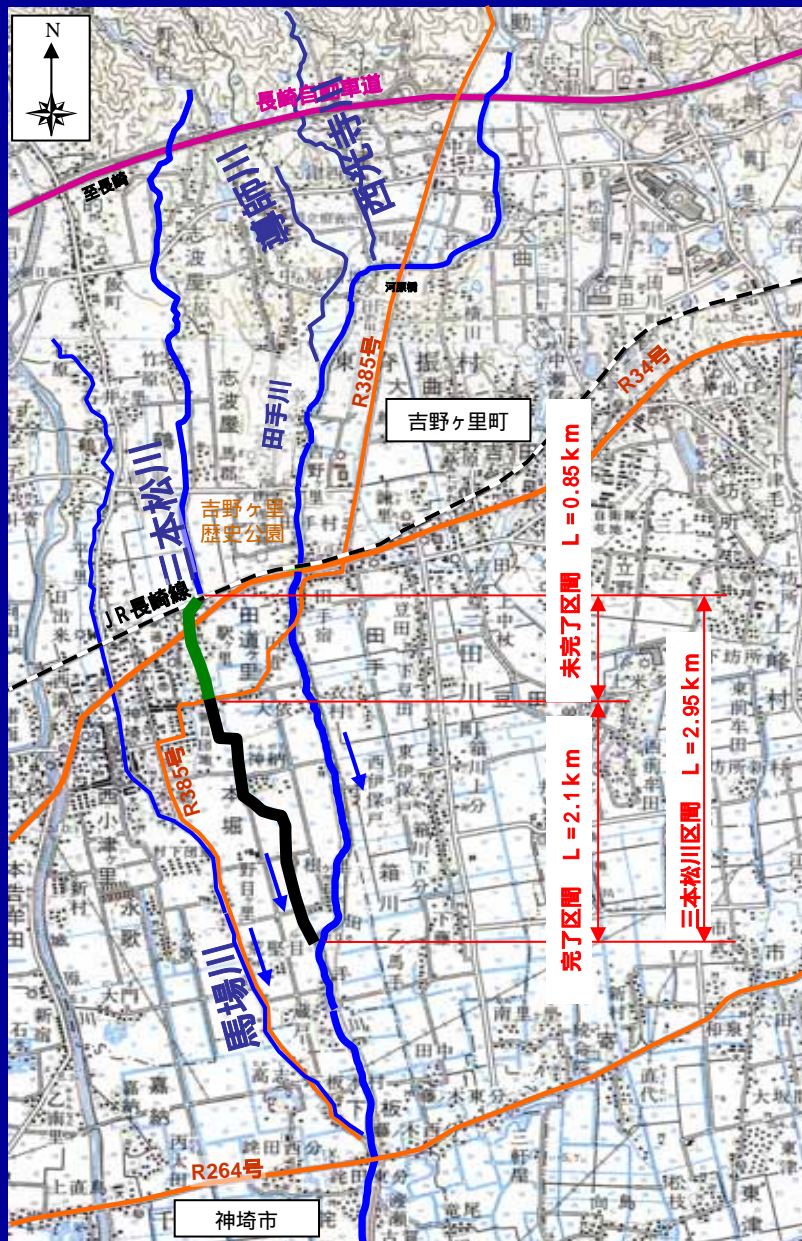
掘削、築堤、護岸、
橋梁工9基、堰3基

完了区間	——
未完了区間	——

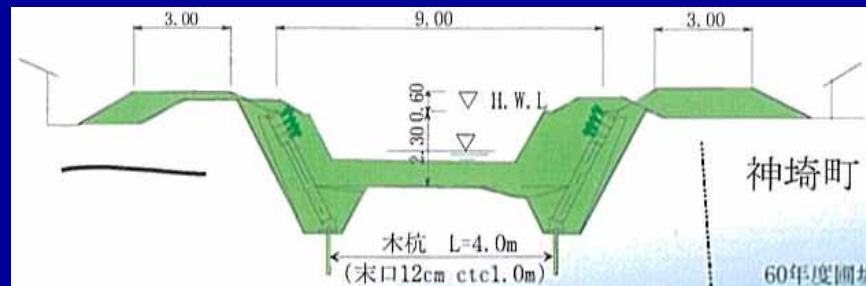
三本松川

位置図

事業進捗状況



標準横断図



事業概要

- ・全体事業費 5,090百万円
- ・改修延長 $L = 2.95 \text{ km}$
(完了区間: $L = 2.1 \text{ km}$ 、未完了区間 $L = 0.85 \text{ km}$)

掘削、築堤、護岸、排水機場2箇所、
橋梁工13基、堰4基

完了区間



未完了区間



費用対効果 B / C

総費用額 C : 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額 B : 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年までの総便益額
(被害軽減額)

(総費用額C及び総便益額Bをそれぞれ現在価値化し比較する)



総費用 C : 54,348百万円

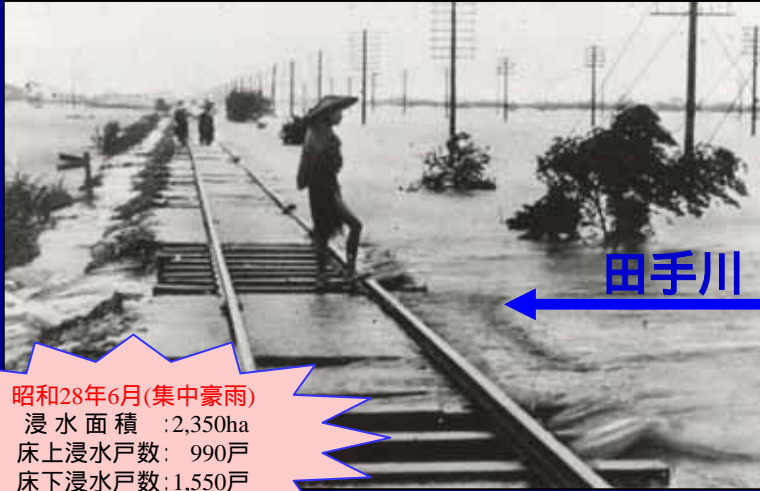
総便益 B : 280,912百万円

内訳

・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産)	100,231百万円
・農作物被害(水稻、畑作物)	2,372百万円
・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁、農地等)	169,792百万円
・間接被害(事業所の営業停止被害、応急対策被害等)	8,517百万円

$$\text{費用対効果 } B / C = 280,912 / 54,348 = 5.2$$

田手川 過去の浸水状況



昭和28年6月(集中豪雨)
浸水面積 : 2,350ha
床上浸水戸数: 990戸
床下浸水戸数: 1,550戸

(昭和28年6月 出水状況)(JR橋付近)



(昭和47年6月 出水状況)(千代田町下板)



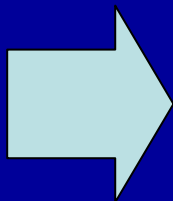
(昭和57年7月 出水状況)(千代田町下板)



(平成2年7月 出水状況)(神埼町大字本堀荒堅目)

改修前後の状況(田手川)

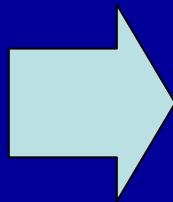
田手村橋周辺



改修前

改修後

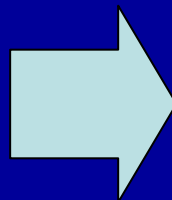
田手橋下流



改修前後の状況 (三本松川)

国道385号より下流
(神崎町田道ヶ里周辺)

下流区間
(笹隈川合流点付近)
(神崎町本堀)



改修前

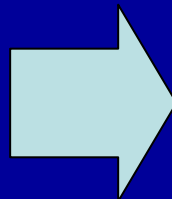
改修後

改修前後の状況(馬場川)

荒堅目上橋より下流を望む
(神埼町大字本堀荒堅目)



改修前



改修後

今後の整備箇所状況(田手川)

辛上橋直上流
(導師川合流点付近)



固定堰が高く、
河川の断面が小さい

洪水による氾濫が起きやすい

河原橋(国道385号)
直上流



橋梁改築により、
一部改修計画で
河道が広がっている。

未改修である
上流区間は、
川幅が狭い。

今後の田手川広域基幹河川 改修事業の継続について

河川改修の効果

治水安全度の向上

- ・残る上流区間については、先ず暫定計画(1/10)による整備を先行して進めることにより、治水効果の早期発現を図りたい。
- ・その後は、最終計画(1/50)での整備を実施し、治水安全度の向上を図りたい。

過去の浸水被害の軽減

昭和28年6月洪水

(浸水家屋: 2,540戸、 浸水面積: 2,350ha)

平成2年7月洪水

(浸水家屋: 487戸、 浸水面積: 3,390ha)

地域住民の安心・安全の確保

今後の事業展開

- ・事業を継続し、早期完成を図りたい